

## 令和2年度 第2回生駒市社会教育委員会議録（要約筆記）

1 日時 令和2年12月25日（金）15時～17時30分

2 場所 生駒市役所 4階 大会議室

3 出席者

（委員）大谷裕美子委員（議長）・三村明弘委員（副議長）・浦林直子委員・大辻哲男委員・上武敏一委員・近藤裕一委員・清水泰之委員・土本みさ子委員・徳田浩平委員・中嶋宏明委員・平井富久子委員  
松尾正則委員

（事務局）八重生涯学習部長・清水生涯学習課長・井川生涯学習課長補佐・西野図書館長・入井図書副館長・錦図書館南分館長・平澤図書館北分館長・中谷駅前図書室室長・西スポーツ振興課長・谷江生涯学習課主幹兼生涯学習文化係長・上田生涯学習文化係員・小関生涯学習文化係員  
八代教育指導課長補佐・小泉教育指導課指導主事

（欠席者）白樫学委員・中田弘司委員

（会議の公開・非公開） 公開

（傍聴者）1名

4 議事内容

（1）コミュニティ・スクールの概要について

議長から説明。

（2）本市のコミュニティ・スクールの取り組みについて

八代教育指導課長補佐から説明。

（3）コミュニティ・スクールについての意見交換

内容（3）意見交換について

（質 疑）

清水委員

コミュニティ・スクールは、文部科学省が定めた将来を担う子どものための制度。子どもたちに何を教えたいかではなく、どんな子どもを育てたいかという思いを軸に、地域住民と子どもの意識変革をしなければいけない。社会教育委員会議では、各委員がどういった役割で関わることができるかを考えて、生駒市でもしっかりと進めていきたい。主体的な子どもを増やすために

どんなきっかけをつくるかを重要視するべきだ。

浦林委員 生駒市の現在の取り組みについては、大谷議長と八代先生の説明でよく理解できた。その上で、学校運営協議会のメンバーに選出されない限りは自身がコミュニティ・スクールにかかわることが難しい印象を受けた。社会教育委員であれば学校運営協議会に選出されるのか、そうでなければ社会教育委員としてこういった形で協力できるかを知りたい。

議長 社会教育委員が学校運営協議会に選出されるとは限らないが、学校運営協議会のメンバーに選出されたとしても、何でも動かせるわけではない。どちらかという自転車の図で示した後輪部分である実働的な地域学校協働活動としてかかわっていただけなのではないか。今所属されている団体の一員として何ができるかを一步踏み込んで考えてみてほしい。

浦林委員 社教連会報や冊子（発行：一般社団法人 全国社会教育委員連合）によると、社会教育委員の地域における役割は、「人づくり、つながりづくり、地域づくり」であり、他市町村では社会教育委員としてプロジェクトを起こして活動するなど、活発な自治体も見受けられる。生駒市としても活発に働きかけられればいいと考えている。生駒の社会教育委員は、せっかく様々な活動団体の委員が揃っておられるのだから横のつながりも積極的に構築し、力を合わせて考えていきたい。

土本委員 生駒には長年地域で子どもを巻き込んだ活動を実践している人が既に各地域に多くいらっしゃるの、コミュニティ・スクールという制度と絡めてそういった方たちをどう生かすかを考えてみてはどうか。

松尾委員 自治会の代表として出席しているが、自治会も長くに渡って活動を実践し続けている。しかし、一部の人間だけが動いても全ての子どもたちに影響を与えることは難しいと長年活動してきて実感している。幅広くどのようにPRしていけばいいかヒントが欲しい。

中嶋委員 社会教育委員として、コミュニティ・スクールについての発信をしていきたいと思っている。生駒は地域の活動が活発で、個々の力も必要だが、まずは一様に理解するために発信する機会があると良いと感じている。

大辻委員 地域ぐるみの活動が長年活発な生駒では、すでに取り組んでいる内容と重なる部分も多い。そこに少し手を加えることによってコミュニティ・スクールに大部分で当てはめることが出来ると思っている。今はどのように制度を活用するかという段階で、具体的な結果はこれから。主役は学校の先生、子どもたち、地域の方々。特に信念をもって方向性を示すことができる校長先生の存在は重要と考える。

徳田委員 今年度のデータではコミュニティ・スクールは約3割の学校関係者に浸透しているようであるが、現場の実感としては浸透しているようには感じられない。理想は、幅広い層の人たちがもっと気軽に参画できるような環境がベスト。ただ、あくまで理想だから時間がかかることも重々承知している。

議 長 まずは情報共有の機会を増やし、みんなが知る機会をつくり出していくことが重要。そのためにコミュニティ・スクールが令和3年度から全市的に設置されるということを社会教育委員として、みなさんに知っておいていただきたいと思う。今後は社会教育委員会議として、主体的に取り組む機会を作っていきたい。母体団体の代表として個々の発信が必要だと考えている。

#### 内容（4）その他

事務局からの事務連絡

閉 会